

平成29年度 第1回大和市予防接種運営審議会 議事録

日 時：平成30年1月30日（火）午後7時30分から午後8時30分まで

場 所：大和市保健福祉センター 5階 501会議室

出席者：委 員7人：小林会長、横田委員、玉井委員、和田委員、芳沢委員、中井委員、栗生委員

事務局6人：渡辺健康福祉部次長、目代健康づくり推進課長、石川保健衛生・がん予防担当係長、鈴木主査、和田主査、菊地主事

1. 開会

挨拶：渡辺健康福祉部次長

本来ならば、大木市長が挨拶すべきところですが、あいにく所要のため、私からご挨拶させていただきます。

本日は、公私ご多忙のなか、大和市予防接種運営審議会にご出席をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、予防接種をとりまく情勢は目まぐるしく変化しております。

今年度は、化血研製造の日本脳炎ワクチン「エンセバック皮下注射用」の供給停止や、インフルエンザワクチン供給の遅延などにより、ワクチン不足の問題が目立つ一年となりました。

しかしながら、市民に大きな混乱を招くことなく事態を乗り越えることができるよう、委員の皆様からご意見、ご指導などをいただくことができ、深く御礼申し上げます。今後とも、大和市予防接種事業の円滑な運営にご協力くださいますようお願いいたします。

簡単ではございますが、本日の予防接種運営審議会が有意義な場となりますことを期待いたしまして、挨拶とさせていただきます。

2. 挨拶：小林会長

予防接種事業は順調に軌道に乗って、接種される方も順調に増えてきていると思いますが、これから考えることは、そこから脱落した方をどう拾い上げていくか、きめ細かい対応もこれから必要かなと思っております。今日の議題が順調に進みますようお願いいたします。

3. 報告 ○：委員、●：事務局

1) 平成26～29年度 定期予防接種実施状況(資料1-1、1-2)

2) 事故報告等について(資料2)

○：直ちに重大な健康被害につながる可能性が少ない事故の16番目の日本脳炎の接種回数が5回あった。このケースは母子手帳を持参にもかかわらず接種したものなのか。それとも母子手帳が無く接種したのか。

●：母子手帳のデザインが同じであっても年度によって予防接種の欄が違うものがある。今回のケースは日本脳炎の欄が分かりづらいところにあったこと、さらに日本脳炎の4回目の接種がその他の予防接種欄にされていたため、見落としがあったものである。

○：2種混合と日本脳炎2期が母子手帳の後ろのページにあり、事故が多発したので前のページに戻した。

- ：今回接種回数が多くなったことを受けて母親の協力を得て、母子手帳を見せていただき医療機関ともご確認いただいた。
- ：別添資料のヒトパピローマウイルスのリーフレットは何を目的に配ったのか。勧奨はしないが、心配は無いという意味なのか。
- ：積極的な干渉は差し控えていることと合わせて母親や本人も理解をしないがために受けたくないというのではなく、一步理解を進めるというような形で検討している段階からもHPVワクチンの意義と効果を伝える、合わせて起こりうる症状を可能性があることを知っていただく。受けられる前にリーフレットに記載されている症状がでた場合はすぐに注意や報告、相談をするように理解を進める目的がある。
- ：コッホ現象の疑いで紹介された人の結核感染のパーセンテージはどれぐらいなのか。
- ：平成29年の1月1日から12月までのその間にコッホ現象の疑いがあるものとして市立病院に紹介いただいた件数は38件あった。そのうち潜在性結核感染症として治療を始めたのが3例である。
紹介いただいた医療機関の内訳にばらつきがあるので、可能であれば接種件数との相関があるか検討してみても良いのでは。

3) 大和市予防接種情報提供サービス「らくらく予防接種」登録者数（資料3）

4. 議題

1) 個別予防接種事業案（資料4-1）

- ：資料の4-1で市外の実施医療機関が多いのは驚いた。大和市は医師会員でなければ予防接種してはいけないと厳しいしほりをつけて、きちんと効果があるようにしているが、市外はどれだけ精度管理されているのか。
- ：昨年10月までは市境の医療機関と個別に契約を行ってきたが、医師会から相互乗り入れを将来的に目指すお話しがあり、その後拡大する際には各医師会に入っていること、実際に接種される先生も医師会に入会されている先生であることと、大和市と同じ条件で契約を結んでいる。協力いただけると申し出があった時には、医療機関にこちらから説明を行い、実施要領の徹底や接種対象者の年齢、接種方法など、かなり細かく説明をしている。大和市の医師会と同じような形で承諾書を共通のものを使い、実施していただく予防接種の内容、接種される先生の名前も確認をしている。
更新についても毎年承諾書を取り確認している。
- ：相互乗り入れというのは医療機関と市が行っているものか。それとも市と市の間で行っているものなのか。
- ：市と市の間で行うことを将来的な目標としている。

2) 定期接種における対象年齢、委託料における年齢について（資料4-2）

3) 成人風しん予防接種費用助成事業の接種前申請について（資料4-3）

- ：風しんの事前申請は非常に助かる。来院した方は予防接種の記録を持っている人は非常に少ない。過

去に風しんの接種歴があったケースはあっただろうか。

- ：今年度がかなり多く、17件あった。そのような時には受けられた方にも対象にはならないということでご理解をいただき、助成金額も合わせてお支払いいただくという調整をしている。

→議題1)、2)、3)について、委員全員より承認された。

5. その他の連絡事項

1) 予防接種間違い報告について(資料5-1)

2) 予診票の変更点について(資料5-2)

3) 市外協力医療機関のBCG定期接種について(資料5-3)

- ：相互乗り入れとなっても、座間市のBCGは集団接種で大和市の医療機関で座間市のBCGは行えない。イーブンな条件ではないので快諾はできない。大和市の医者も座間市でBCGを行えるなど、きちんと整備しての話ではないかと思う。
- ：これはもう行われているのか、それとも案として出ているものなのか。
- ：今年度までも委託の条件としてはBCGとHPVは入れておらず、平成30年も同じ条件で調整している。事故防止が一番ということで市外医療機関についてはBCGについては委託していない。
- ：他市はどうか。
- ：それぞれの自治体の判断で市外医療機関に委託している状況である。
- ：安全の担保が一番大事だと思う。他市がBCGの手上げをしたときに大和市と同様に研修を行っていけるのかという懸念がある。
- ：針痕の少ない事例が散見される中、市民の利便性を考えると良いかもしれないが、接種したお子さんにとって良かったのかどうなのか疑問である。もう少し検討が必要があると思う。
- ：市外でBCGを接種する方はどれ位いるのか。
- ：今年度は10月末時点で8件である。
- ：安全性を確保するには、あまり広める必要はないと思う。
- ：市内の有床病院に関して、人事異動などがあった場合には医療機関に出向いて研修を行っているが、伝達研修も一つの方法だと考えており、仮に行う場合はどういう形で行ったら良いかご意見を頂戴したい。
- ：今年度は伝達研修が認められないということで、来ていただいて講習を行った。大和市の予防接種の制度について説明していただき、大和市に初めて来た先生に有用だった。ビデオでの手技も再確認という意味でもとても有意義であった。それを、市の職員が毎年病院に出向いて行う必要があるかどうか再検討の必要がある。ビデオはこちらでお借りして、制度については市立病院の職員からの伝達でも良いのではないだろう

か。

- ：研修については機会が少ないので手技の習得などにもいい機会になると思う。
- ：今年度は研修終了証をいただいて BCG が出来るようになったが、質を担保するという意味でも、ビデオを見ることや市の制度を知ることは重要だと考える。市立病院の職員だけで研修をして修了証が出せないということであれば、健康づくり推進課の職員がきていただいても良いと思う。

6. 閉会

以上